

富士山登山鉄道構想勉強会 概要

【開催要領】

1. 日時
令和元年5月22日（水）午前9:00～9:35
2. 場所
都道府県会館4階 410会議室
3. 出席者 （敬称略、五十音順）

青柳 正規	富士山世界遺産国民会議理事長、元文化庁長官、山梨県立美術館館長
岩村 敬	一般財団法人環境優良車普及機構会長、元国土交通事務次官
太田 孝昭	富士山世界遺産国民会議監事
小田 全宏	富士山世界遺産国民会議運営委員長
喜勢 陽一	東日本旅客鉄道株式会社常務取締役
（代理：小山宏）	（東日本旅客鉄道株式会社総合企画本部投資計画部担当部長）
山東 昭子	参議院議員
島田 晴雄	首都大学東京理事長
清水 喜彦	SMB C日興証券株式会社代表取締役社長
高橋 誠一	全国賃貸管理ビジネス協会会長
日枝 久	フジサンケイグループ代表
平林 良仁	富士山世界遺産国民会議評議員
藤井 敏嗣	山梨県富士山科学研究所所長、前気象庁火山噴火予知連絡会会長
宮田 年耕	首都高速道路株式会社代表取締役社長
長崎 幸太郎	山梨県知事

【次第】

1. 開 会
2. 主宰者挨拶 長崎幸太郎 山梨県知事
3. 出席者代表挨拶 山東 昭子 参議院議員
4. 意見交換
 - （1）富士山の交通システムに関するこれまでの検討状況について
 - （2）今後の進め方について
 - （3）その他
5. 閉 会

【主な意見等】

(今後の進め方)

- ・ 富士山登山鉄道構想の具体的な検討に当たっては、技術的な課題、環境への影響、防災対策、ユネスコとの関係など、様々な点についてしっかりと検討する必要があるため、「富士山登山鉄道構想検討会」を設立し、対応したい。

(鉄道事業について)

- ・ 富士山登山鉄道を行う上で、環境を破壊してはいけない。その点が一番重要。

(山麓の地域づくりについて)

- ・ 単に鉄道だけで終わるのではなく、地域にプラスの効果をもたらすものでなければならない。富士五湖は素晴らしい観光資源であり、富士五湖地方をイギリスの湖水地方のようにすることを目指してはどうか。
- ・ あまりにも看板など色々なものが多すぎる。
- ・ 開発が進んでいる。特に、屋根の色や壁の色などの規制を強化すべき。

(富士山周辺の交通アクセスについて)

- ・ 富士山の渋滞が課題。富士山に登る鉄道だけでなく、料金所なり入口に至るまでのアクセスも含めて議論した方が良いと思う
- ・ 吉田と須走を繋ぐ高速道路料金が高いため、トラックが高速を使わずに一般道を走っている。それにより、周辺の渋滞がひどいままなく須走～御殿場のバイパスが開通するが、そちらは無料。吉田～須走間の料金を少し下げるなり、トラックのみ安くする等、料金を考えた方が良い。

(火山防災対策について)

- ・ もし噴火した場合には、道路でも線路でも同じことだが、噴火前に5合目から人を避難させるという点では、自動車よりも鉄道の方が大量輸送に向いているので、迅速に避難させることができる。直撃を受けない限りは色々な意味で鉄道が便利だと思う。
- ・ 5合目に、火山や自然などの解説施設を作り、登山者がそこで知識を得てから登るような仕組みができると良いと思う。

(富士山五合目の状況について)

- ・ あまり知られていないが、5合目には電気が来ておらず、それぞれの施設が自家発電しているため、NO_xや排ガスの問題がある。車だけではない環境問題。また、下水道もないため、鉄道と一緒に、電気、上下水道等のライフラインを通すことが必要。
- ・ 5合目の土産店の乱立も問題。鉄道を機に全体を考えて頂き、地下などに施設を作って、すべて一緒にするなど、すっきりさせた方が良い。

(その他)

- ・ 現天皇陛下が、2014年に山岳雑誌に、富士山について特別寄稿した文があるので紹介したい。「富士山の自然が守られ、今後何世代にもわたり、人々が富士山の美しさを楽しむよう心から願わずにはいられない。」とある。
- ・ 現天皇陛下の誕生日は、2月23日の富士山の日である。